

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社兵庫福祉保健サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷浦富 I 階		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>経営理念の「ゆっくり 一緒に 楽しく」を基に、グループホーム松風の郷 浦富の理念として「あせらない 同じ目線で 笑いある」を掲げ、家族様や地域の方の行事参加等、繋がりを大切に職員一同アットホームな施設を目指し、一人一人のペースに合わせ楽しく過ごせるよう支援に努めています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100112		
法人名	株式会社兵庫福祉保健サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷 東浜		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町陸上494		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和4年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東浜駅前に建つ古風な建物がグループホーム松風の郷東浜です。瑞風が停車するのを楽しみにされ、散歩コースになっています。夏の散歩には海の見える景色も最高です。現在はコロナ禍の状況の中、外出ができず施設内での軽体操や体力づくりに取り組んでいます。「ゆっくり 一緒に 楽しく」の経営理念のもと利用様、職員共に笑顔で過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東浜駅前に位置し、山陰海岸 東浜を望む自然豊かな立地にあり、近隣の同法人施設 グループホーム松風の郷 浦富と併設サービスと協力関係を築きながら施設運営されている。隣接する遊歩道を散歩コースとし、利用者は海の見える景色を満喫され、「瑞風」停車時の歓迎風景も楽しまれている。松風の郷理念「ゆっくり 一緒に 楽しく」と共にグループホーム独自の「喜努愛楽」の理念を作成し、利用者一人ひとりと、日々のコミュニケーションを大切に、笑顔で楽しく過ごせる様 職員全員で支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや会議において職員に確認をしたり、玄関先やリビングに理念を掲示し常に意識して支援に努めている。	理念は 毛筆書きで額装し、玄関に掲示されており、季節の花や飾りと共に来客の目を楽しませている。リビングにはグループホーム東浜独自の理念「喜努愛楽」(喜び努め愛を持って楽しく過ごす)を掲示し、職員は常に意識し実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により参加できていないが、海岸清掃や防災訓練、運動会などの地域行事に参加していた	町内会に加入されている。地域行事の運動会や海岸清掃、防災訓練などに以前は参加していたが、現在はコロナ禍のため中止となり、参加されていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため運営推進会議の開催が中止となり、議事録にて報告をしている。	運営推進会議が中止となった為、市町村担当者へ利用者の状況、活動状況、行事予定等の報告書を提出されている。	対面での開催が難しい場合、書面会議等での開催を実施されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問休止となっているが、生活保護者への面談等で施設への来所持サービスの取り組みを伝え協力関係を築けるよう取り組んでいる。	介護相談員の訪問は休止となっているが、市町村担当者とは月1回面談し、連携をとり協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、全ての職員が理解を深めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間の研修計画に基づき全職員がeラーニングにて研修を実施されている。車椅子利用者や、転倒の危険がある場合は、家族に了解を得てセンサーマットを使用し、身体拘束をしないケアに取り組まれている。日中玄関は施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。また利用者様の身体や挙動の変換、職員の言葉使い姿勢態度などお互いに注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度の施設内研修を行い、個々の状況により活動できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際締結や解約について丁寧に説明し不安や疑問を尋ねている。また契約書内に大きく連絡先を提示し、いつでも連絡していただけるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時に職員が声をかけ、日ごろの様子を伝え意見や要望を伺い、それらを共有し運営に反映している。	現在は家族の面会は玄関にて行われている。家族会はないが敬老会・夏祭りへの参加を声掛けし、月1回生活の様子や医療機関の受診予定等のお知らせの便りを送付されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見交換を行い、その都度管理者に意見や提案を伝えることができる。管理者・本部担当者による個人面談を通じ意見交換ができる場を設けている。意見や提案があれば、職責問わず相談できる体制を整えている。	毎月のスタッフ会議では本社からの報告事項を伝え、職員の提案・意見を聞き、話し合いをされている。職員の要望により、本社とのリモート会議を実施される等、職員の意見を広く運営に反映出来る体制を整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職雇用による意識改善、資格手当、育休等の整備や処遇改善制度の活用を行い環境改善に努めている。また夜勤専従やにつきんのみ、フロアスタッフ等多様な働き方を推進し個々の生活に合わせた就業形態を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を最低基準とし、Eラーニングの導入により全体のスキルアップを行いつつ、個別に希望の研修の受講支援を実施。費用補助、研修受講時間を勤務時間とみなすことで働きながらスキルアップしやすい体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することで交流のきっかけづくりや情報交換の場としている。研修などの報告を行い運営やサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族様より生活歴や要望、不安なことを確認した上で支援内容についての説明を行い、安心していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族様に施設見学して頂き、希望や不安を伺いながら意向に沿ったサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の現状に応じたサービスの利用と家族様の思いに寄り添ったサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用様と生活空間を共有し共に寄り添うことで信頼関係を築いていけるよう日々努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族様やコロナ禍で会えない家族様に毎月、写真入りの生活の様子を郵送し、近況をお伝えしている。また、タブレットでのリモート面会を検討中である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の生活歴を尊重し、機会があれば馴染みの場所などに出かけたりしていた。面会が困難な友人などは電話で連絡できるよう支援している。	外出の機会が少ない中、家族との医療機関への受診の際にお寺参りへ行かれたり、天気の良い日は縁側での日光浴や近隣の馴染みの場所へ出かけられている。また、県外の知人との電話での交流を支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流が取れるよう相性や好みを見極め、レクリエーションなど一緒に参加できるよう職員も間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過などの情報交換行ったり、相談をうけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族様からの情報、本人様の思いや希望を聞き、日ごろの様子などを把握しながら出来る限り希望をくみ取るように努めている。	ケアプランを作成する際、家族・本人から話を聞き、希望を把握されている。誕生日には本人希望の食事メニューを聞かれる他、日々の様子を見ながら本人本位に検討し、ケアに努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴や生活環境、大切にしてきたことを職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の過ごし方の中で変化が見られたり気付いた事などがあれば職員と看護師との情報交換やケース記録などで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアプランの見直しや気付いた事など職員同士で話し合い、ケアプラン作成時には本人様や家族様の意見も聞き反映させている。	看護師がバイタルチェックにて体調管理を行い、毎月のカンファレンスで話し合い見直しされている。介護計画は3ヶ月または6ヶ月ごとに、本人・家族の希望を取り入れ作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の一日の様子をケース記録に記入し、気づきなどがあれば申し送りノートで情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況やニーズに対応できるべく、サービスの多機能化を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防署・SOSネットワークへの連絡ができるよう連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様や家族様の希望を確認し、かかりつけ医の受診又は往診を受けられるよう支援しています。	受診は基本的には家族の協力を得て行なわれている。入居の際に利用者や利用者家族の希望を聞き、納得が得られたかかりつけ医での適切な医療が受けられるよう支援されている。また、1ヶ月に1度、歯科医による口腔検診を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職への情報伝達、相談を行い、適切な受診や処置を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報提供書を基に情報交換を行っている。また病院関係者と家族様と治療の方向性の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の方針について話し合い、本人様家族様の意向を尊重している。	入所時、緊急時の対応及び重度化した場合における対応に関する指針を示し、説明されている。看取りはされていない。松風の郷として夜間の巡視チェック表を作成される予定である。	夜間の巡視チェック表を作成され、きめ細やかな見守りをされることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルや救急連絡シートを用意し、急変時の対応について意識づけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。例年地域の訓練にも参加していたがコロナ禍にて本年度は開催されず。	避難訓練はコロナ禍以前は地域・消防の協力のもと年に2回行われていた。現在は行われていないが、年度内には実施する予定であると共に、備蓄についても検討される予定である。	利用者の安否確認が救助者にもわかるよう各居室の表示を工夫されると共に、避難訓練の実施と備蓄の確保に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり利用者様を尊重し尊厳を損なうことの無いよう、日々の言葉づかいや声掛けを職員間で注意している。	利用者一人ひとりの自尊心や羞恥心に十分配慮し、言葉遣いや声掛け、声の大きさなどに気をつけられながら対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向や希望の把握に努め自己決定の助けとなるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースですごしていただき、職員もそのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望や季節に合った身だしなみができるように、またおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用様も役割を持ちながら食事の準備を行ったり、旬の食材を多く取り入れ、楽しみに繋がるよう取り組んでいる	利用者は役割を持ちながら、テーブル拭き、おしぼりの準備、具材切りなどできることを皆で行われている。また、利用者の誕生日には何が食べたいのかを聞かれ、食事が楽しみとなるよう提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量水分量を記録し把握できるようにしている。また、利用者様の嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後行っている。月一回の歯科往診もあり、個々の状態を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状況を確認しながら声掛けを行い、失敗やパットの使用を減らすよう取り組んでいる。無理せず二人介助を行う方もある。	一人ひとりの排泄状況を確認しながら声かけをされ、失敗やパット使用を減らすよう取り組まれている。	自立歩行可能な利用者の居室からトイレまでの距離が、かなり長いように思います。よって利用者それぞれの排泄状況を踏まえた部屋割りを行うなど、排泄の適切な自立支援の検討を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の記録にて排便状況を把握し、水分摂取の声掛け、毎朝のヨーグルトや食物繊維を取り入れた献立など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を基に入浴の案内を行っている。入浴剤なども使用し入浴を楽しんで頂いている。	最近、浴槽、脱衣所のリフォームが行われ、利用者は入浴を一層楽しみにされている。基本的には週に2回午前中の中の入浴であるが、利用者の要望があれば回数や時間にこだわることなく柔軟に運用されている。さらに入浴剤を使用され、利用者には好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば居室で午睡していただいたり、季節に応じた温度管理を心がけ、快適に休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋の確認を行い把握するよう努めている。また症状の変化等あれば医師の指示のもと服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を尊重し、能力に応じた活動を共に行い、負担にならないよう配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出が厳しくなっているが、天候を見ながら玄関先などで日光浴している。	コロナ禍のため戸外に出かけることが厳しい状況である。天候を見ながら玄関先などで日光浴を楽しまれるなど利用者の状況に合わせて行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態や希望に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば電話していただいたり、手紙のやり取りも行っていたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間を目指し少しずつ改善を続けている。また季節に合わせて利用者様たちと一緒に作った作品や行事の様子などを展示し生活感や季節感を取り入れている。	利用者と共に作成された季節感のある作品を飾り、笑顔の利用者の写真、行事の様子などを展示されていた。また、スタッフの写真も壁に貼られるなど温かみのある雰囲気であった。共用空間はBGMをかけられ、動線を考えてながら工夫されているのが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方が一緒にソファに座って話したり、ゆっくりテレビを観たりと思い思い安心して過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望や状況に合わせて家族様と相談しながら馴染みの物を居室に置いたり、使い慣れたものを使っていたいただき居心地よく過ごせるようにしている。	居室は利用者の希望や状況に合わせて、テレビ、仏壇など馴染みの物を置いたり、使い慣れたものを持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫されていた。また、利用者の状況に合わせて出来るだけ自立した生活が送れるよう段差等に配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力や状況に応じてトイレの案内表示をしたり、個々に合わせた安全な環境づくりに取り組んでいる。		